



夏休みを前に：気になるデータ ～令和2年の自殺統計から～

警察庁・厚生労働省の自殺統計によると、令和2年における児童生徒の自殺者数は499人で、前年（399人）と比較して大きく増加しています。（そのうち女子高校生の自殺者は209人で、前年（127人）と比較して、特に大きく増加）

18歳以下の自殺者において、過去40年間の日別自殺者数を見ると、夏休み明けの9月1日に最も自殺者が多くなっているほか、春休みやゴールデンウィーク等の連休等、学校の長期休業明け直後に自殺者が増える傾向にあるようです。これから夏休みに入りますが、家庭における見守りを行っていただくことはもちろんですが、保護者の皆様が把握された子供たちの悩みや変化については、どうぞ積極的に学校までご相談ください。（裏面に「24時間子供SOSダイヤル」のチラシを付けています）休み明けに元気で子供たちに会えることを楽しみにしています。



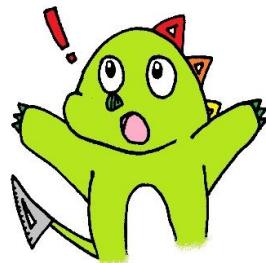
スクールカウンセラーゲー
のご相談もどうぞ

前途洋々

水難事故防止について再度考える～夏休みを前に～

子供たちが楽しみにしている夏休みまで、あと一週間すこしとなりました。コロナ禍で様々な活動が制限される中、子供たちを大自然の中で遊ばせたいとお考えのご家庭も少なくないと思います。夏期休業中は、特に、「水に関する事故」について意識を高めておくことが重要ですが、公益財団法人河川財団がとりまとめた「水難事故 2021」に下記のデータがありましたのでご紹介します。

- 令和2年における水難事故の発生件数は1,353件で、死者・行方不明者は722人
- 河川・湖沼池に限ると、死者・行方不明者は288人
- 子供の水難死亡事故の約6割は「川」と「湖」で発生・・・子供にとって身近であるとともに、不慮の事故に遭いやすい場所（2003年-2020年）
- 水難事故件数の約半数は7-8月に集中（2003年-2020年）
- 水難事故の発生は午後の時間帯に集中（なかでも、14時～15時前後をピークとして13時から17時までの4時間に集中）
- 水難事故発生上位は都市部からのアクセスが良好な河川
- 子供の事故でよく見受けられるパターンは、河岸から転落して溺れてしまうケース
- グループに大人がいても事故数が多い。家族連れなど大人に引率されたグループでも事故が多く発生していることから、グループに大人がいても安心ではなく、大人・子供ともに安全管理を行うことが重要



また、警察庁生活安全局生活企画課から出されている「令和2年夏期における水難の概況」では、水難の防止対策として下記の事項が挙げられています。参考にしていただき、ぜひ事故のない夏を楽しく過ごしていただきたいと思います。

- 危険箇所の把握（魚とり・釣りでは、転落等のおそれがある場所、水泳や水遊びでは、水（海）藻が繁茂している場所や水温の変化、水流の激しい場所、深みのある場所等の危険箇所を事前に把握して近づかない。また、子供を危険箇所に近づけない）
- 的確な状況判断（河川が増水するおそれが高いときには、釣りや水泳、中州や河原でのバーベキューなどを行わないなど）
- 遊泳時の安全確保（遊泳に当たっては、水深、水流を考慮し、安全な方法で遊泳するなど）
- 保護者の付添い（子供の水難防止のため、子供だけでは水遊び等をさせず、幼児や泳げない学童等には、必ずライフジacketを着用させ、保護する責任のある者が付き添うなどして、目を離さないようにする）